助動詞　「なり」「たり」

◇活用

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
なり	なら	なり	なり	なる	なれ	なれ
たり	たら	たり	たり	たる	たれ	たれ

◇接続

「なり」は**体言と連体形**、「たり」は**連体形**に接続

◇意味

① **断定**「～だ」　…何であるかの動作を断定的に述べる

例）しかるを忠盛備前守**たり**し時、鳥羽院の御願、得長寿院を造進して、（平家物語）
（忠盛が備前守であった時、鳥羽天皇のご意志で、得長寿院を建立して）

② **存在**「～である」　…物事があることを表す

例）天原ふりさけ見れば春日**なる**三笠の山に出でし月かも（古今和歌集）
（天を仰いで遠くを眺めれば、月が昇っている。あの月は奈良の春日にある、三笠山に昇っていたのと同じ月なのだなあ）

◇「なり」の識別

①断定の助動詞「なり」
→ 体言・連体形に接続している。訳したときに「～だ」という意味になる。

②伝聞・推定の助動詞「なり」
→ 終止形・ラ変の連体形に接続している。訳したときに「～ようだ」という言いになる。

◇「たり」の識別

① 完了・存続の助動詞「たり」
→ 連用形に接続している。訳したときに「～た・～ている」という意味になる。

② 断定の助動詞「たり」の終止形
→ 体言に接続している。訳したときに「～である」という意味になる。